国

令和七年度　看護学部学校推薦型選抜（公募制）　基礎学力試験　問題用紙

国　語

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

著作権の都合により、ホームページでは公開しておりません。

著作権の都合により、ホームページでは公開しておりません。

著作権の都合により、ホームページでは公開しておりません。

（二〇一二年に出版された暉峻淑子（てるおかいつこ）『社会人の生き方』による）

注　コペル君の物語＝吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』、コペル君は主人公。

問一　二重傍線部①から⑩のカタカナの語を漢字に直し、漢字の語の読み方をひらがなで書きなさい。

① ケイジバツ　② レンサ　③ イチリツ　④ シハン　⑤ ギセイ
⑥ ドウサツ　⑦ 氏子　⑧ 枠　⑨ 債務　⑩ ハイゼツ

問二　空欄［　a　］から［　e　］を補うのに最も適する語を、それぞれアからオの中から選び、その記号を答えなさい。

a　ア たとえば　イ すなわち　ウ ところが　エ ところで　オ なぜなら
b　ア なまじっか　イ ところが　ウ しかしながら　エ いいかえれば　オ ましてや
c　ア いいかえれば　イ たとえば　ウ なぜなら　エ しかし　オ だから
d　ア ところで　イ そもそも　ウ あるいは　エ しかし　オ だから
e　ア しかし　イ すなわち　ウ つまり　エ たとえば　オ なぜなら

問三　傍線部(1)から(5)の語句について、文中での意味や内容の説明として最も適するものを、それぞれアからエの中から選び、その記号を答えなさい。

(1)「残照のような影響」
ア 夕暮の赤く輝く太陽光のような民主主義的風潮
イ 沈む夕日の光が薄れていくような庶民生活の習慣
ウ 日没後も山頂を射す夕日の光のような前時代の気風
エ 日が沈んだ後の暗闇が迫るような社会情勢

(2)「図書室にあった内外の本の虫になった。」
ア 図書室内の蔵書を借り出して自宅で夢中になって読んだ。
イ 図書室の蔵書をいたずらして遊ぶことに熱中した。
ウ 図書室の内外に置いてあった書物を夢中になって読んだ。
エ 図書室にある国内外の作品を読むことに熱中した。

(3)「戦意を高揚する」
ア 戦闘精神を抑え込もうとする
イ 反戦意志を明らかに示す
ウ 戦争への意見を高々と示す
エ 戦争の士気を高めようとする

(4)「外側の風景」
ア 自分の暮らしと無縁の景色
イ 今まで見たことのない夢の世界
ウ 外国の珍しい世界
エ 大人だけが楽しむ意外な景色

(5)「太刀打ちできない」
ア 勝てるかもしれない
イ 素手であればできる
ウ 全くかなわない
エ 刀では斬り合えない

問四　傍線部**1**「島田先生は作文の時間に、時々、本を朗読され、読書の楽しさを語った。」について、次の各問に答えなさい。

(1)　動詞はいくつ用いられていますか、数字で答えなさい。

(2)　助詞はいくつ（種類ではなく個数）用いられていますか、数字で答えなさい。

(3)　助動詞を二つそのまま順に抜き出して答えなさい。

(4)　用いられている音便を文節で抜き出し、その音便の種類をアからエの中から選び、その記号を答えなさい。

ア　イ音便　　イ　ウ音便　　ウ　促音便　　エ　撥（はつ）音便

問五　傍線部**2**「宮沢賢治や新美南吉や芥川龍之介の本」について、それぞれの作家の作品をアからコの中から一つずつ選び、その記号を答えなさい。

ア『天の夕顔』　イ『みだれ髪』　ウ『土』　エ『おぢいさんのランプ』

オ『野菊の墓』　カ『銀河鉄道の夜』　キ『オリンポスの果実』　ク『破戒』

ケ『斜陽』　コ『侏儒（しゅじゅ）の言葉』

問六　傍線部(A)「ともに生きる社会人としての感情」について、その内容を分かりやすく説明している三十字以内（**句読点を含む、以下同じ**）の表現を、傍線部(A)よりも前の部分から抜き出して答えなさい。

問七　空欄［　　f　　］を補うのに最も適する語句をアからオの中から選び、その記号を答えなさい。

ア　片方の利益は両方の損害

イ　一方の勝利は双方の敗北

ウ　一方の戦果は他方の戦禍

エ　両者の不幸は一方の幸福

オ　他方の幸福は一方の勝利

問八　傍線部(B)「その社会が残した精神の遺産」について、その内容を具体的に例示している三十字以内の文中の表現を抜き出して答えなさい。

問九　傍線部(C)「個人と社会が切り離せないものであること」について、(1)「個人」の側からと(2)「社会」の側からそれぞれ的確に説明している二十五字以内の文中の表現を抜き出して答えなさい。

問十　傍線部(D)「そこに参加すること」について、その内容を説明するものとして最も適するものをアからオの中から選び、その記号を答えなさい。

ア　暴力を伴う独裁社会に対して反抗すること

イ　絶望的な社会でもあきらめずに挑戦すること

ウ　個人の力を社会に及ぼすのを拒み続けること

エ　日常の社会生活を自己中心的に暮らすこと

オ　民主主義社会と積極的に関わっていくこと

問十一　傍線部(E)「社会とは一体何だろうか。」について、筆者が「社会」に関する考察の中心に位置づけているのはどのようなことですか。解答欄に適する三十五字の文中の表現を抜き出して答えなさい。

問十二　空欄［　　g　　］を補うのに最も適する語句を次のアからオの中から選び、その記号を答えなさい。

ア　個人が国家を動かし、個人が国家を支える社会
イ　国家が社会を動かし、社会が国家を支える社会
ウ　社会が個人を動かし、個人が社会を支える社会
エ　社会が国家を動かし、個人が個人を支える社会
オ　個人が社会を動かし、社会が個人を支える社会

問十三　次のアからオは問題文を読解した五人の若者が、それぞれ読後の感想を述べたものです。この中には問題文を誤って解釈したことに基づいた感想であると考えられるものがいくつかあります。誤った読解に基づく感想と思われるものを全て選び、その記号を答えなさい。

ア　筆者は、個人主義を重視し自己中心の生き方が大切だと訴え、大人の社会人としては自分の義務をしっかり果たせと主張している。私も、自分の人生の幸不幸も個人の在り方次第なので、国や自治体の公助を求めるような生き方はよくないと思う。

イ　筆者は、個人が主体的に社会を作っていくことが重要であり、個人の在り方が社会や国家を動かす力になると訴えているから、私は、社会人の生き方として積極的に社会づくりに参加すると同時に、その社会に守られて生きる人生を甘受してよいのではないかと思います。

ウ　筆者は、国家や社会が全面的に個人の生き方を方向付けしなければならないと訴えているから、社会人は自分がどんなに豊かで楽しい人生を歩んでいても、更に豊かさを求めて国家に対する要求を一層増加すべきであろう。

エ　人は家庭や地域を頼りすぎてはいけない、自己責任を果たすことが社会人として必須だ、社会や国家に依存して生きることは甘えだという筆者の主張は、厳しい人生の荒波を渡っていく上での大切な教えがあると思うので自分も自分に厳しくありたいと思います。

オ　専制主義の支配も独裁国家の政治も社会を発展させる力があれば人は幸福だという筆者の主張によれば、個人は積極的に国家建設のために奉仕活動に励まなければいけないので、私は、ボランティア精神を重んじて地域社会に貢献することが社会人としての生きがいになると思う。